

緊急人材育成就職支援事業、御影診療所の地域医療再生問題、農地集積加速化事業、森林整備加速化・林業再生事業等を考えている。そのほか、後期高齢者医療制度が元に戻るかどうか非常に心配であるし、農業者にとって一番心配な農業者戸別所得補償制度もつかめていない。

これらの詳細については一切示されていないので、今後、戦略会議等のなかでどういうものが出てくるのか注視していかなければならない。

### 作況調査による被害対策の必要性は

口田邦男議員

今年の農作物は、8月の気候で多少は生育を取り戻したものの、春先の風害や6・7月の不順な気候で総合的には不

良作と思うが、被害対策の必要性をどう考えているのか。

高簿町長

作況調査後、直ちに営農対策協議会を開催し、今後における生育の状況、収穫の状況を見ながら、必要な対策をうつことで確認している。

共済制度、品目横断的経営安定対策制度等、さまざまな制度があるので、それらの区切りがつかないか、遅くはないので、しっかりと考えた心構えをもってやっていきたい。

### 掲載以外の一般質問

- 原 紀夫 議員  
高齢者住宅の建設について
- 妻鳥公一 議員  
平成22年度予算編成について  
除雪サービスの基準について

# 委員会 レポート

委員会活動として、閉会中に行った所管事務等調査の結果内容を、各委員会は第9回定例会において、次のとおり報告しました。

## 産業厚生常任委員会

委員長 奥秋康子

### 調査事項

### 商店街活性化について 環境問題の取り組みについて

#### ①商店街活性化について(砂川市)

砂川市は、歌志内市、上砂川町の炭坑の閉山、三井木材工業、東洋高圧工業の規模縮小・撤退により人口は大きく減少し、中心市街地の商店街は大きな打撃を受けた。

疲弊した中心市街地を活性化させるため、砂川市は平成18年に2回目の砂川市中心市街地活性化基本計画を作成、平成19年に内閣総理大臣の認定を受けた。この計画の最終目標

を「商店街の活性化」とし、市立病院や地域交流センターを核に中心市街地に多くの人を回遊させる「賑わいの創出」、子どもから高齢者まで徒歩圏内で日常的な需要を満たせる「まちなか居住の促進」を柱に、砂川市の挑戦は現在も続いている。

長沼町は「景観まちづくり事業」と位置づけ、街路樹や歩道、公園融雪溝、街路灯の整備など、水と緑と光に着目したまちづくりを進め、「花いっぱい運動」など町民主体による景観づくりも盛んに行ってきた。更に、平成16年の「景観法」制定を期に長沼町は景観行政団体となり、新たな枠組みのもとで美しい景観づくりに取り組んでいる。「長沼町美しい景観づくり計画」では、「景

#### ②環境問題の取り組みについて(長沼町)

## 議会運営委員会

委員長 森田慎治

### 議会の活性化と議会運営について

北海道町村議会議長会事務局長の勢簾了三氏を講師に迎え、新得町で行われた、西部十勝4町の議会運営委員会合同の研修会に参加した。

勢簾氏は「議会が住民ときちんと向き合うこと、そして常任委員会活動を活発に行うことが大切。それが、議員の質の向上、議会の中身の向上につながっていく」と強調していた。



砂川市における商店街活性化の取り組みについて、職員から熱心な説明を受けた